

資料一覧

	資 料 名	ページ等
	送付資料及びダウンロードによる資料に関する説明	P2~P3
資料 1	令和 2 年度定時総会に関する資料の事前送付	P4~26
資料 2	令和元年度活動報告書 本文(約 100MB) https://blcj.or.jp/blcj_files/blcj_report2019_main.pdf 表紙 https://blcj.or.jp/blcj_files/blcj_report2019_cover.pdf	ダウンロード
資料 3	令和 2 年度活動計画(各部会の事業計画詳細)	P27~38
参考	「建設通信 BIM 特集 5 月 28 日」 (BIM ライブラリ技術研究組合) https://blcj.or.jp/blcj_files/kentsu_news.pdf	ダウンロード

送付資料及びダウンロードによる資料に関する説明

○資料 1「令和 2 年度定時総会に関する資料の事前送付」(総会の正式資料は別途郵送します)は、通常総会前に開催する部会で総会の内容をご理解いただくために事前に送付したものです。内容に関してご質問、ご意見がある場合は、6月19日(金)17時までに事務局に e メールでお送りください。

○総会の議案は次の 3 項目です。

第 1 号議案 役員の選任について

第 2 号議案 令和元年度事業報告及び決算について

第 3 号議案 令和 2 年度事業計画及び収支予算について

○総会の議決は代表者またはその代理人です。代表者は技術研究組合の設立時に代表権のある者とされていますので、各社の社長、団体の理事長等となります。また 2019 年 9 月の総会時に代理人の指定をされて決議に参加され方が 57 名いらっしゃいますので、代理人の議決も有効です。

○技術研究組合の事業報告、決算、事業計画、収支予算の記載項目は、「技術研究組合の設立・運営等ガイドライン」(平成 27 年 5 月経済産業省 産業技術環境局技術振興・大学連携推進課)に則ったものであり、総会終了後 2 週間以内の登記と、国土交通大臣への報告提出が求められていますので、皆様のご協力をお願いいたします。

定款の抜粋

(議決権)

第 11 条 組合員は、各々一個の議決権を有する。

2 組合員は第 31 条第 1 項の規定によりあらかじめ通知のあった事項につき、書面又は代理人をもって、議決権を行うことができる。この場合は、その組合員の親族若しくは使用人又は他の組合員でなければ、代理人となることができない。

3 前項の規定により議決権を行う者は、出席者とみなす。

4 代理人は、5 人以上の組合員を代理することができない。

5 代理人は、代理権を証する書面を本組合に提出しなければならない。

(総会招集の手続)

第 31 条 総会の招集は、総会の日日の 10 日前までに、総会の目的である事項及びその内容を示し、書面又は電子メールにより組合員に通知しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、総会は、組合員の全員の同意があるときは、招集の手続を経ることなく開催することができる。

○第1号議案は、定款第18条では役員の任期は、理事2年、監事4年とされていますが、付則4により、設立後の最初の通常総会までとなっていることで、大部分の役員は再任、また(一社)日本建設業連合会常務理事の交代により、前任の葉石善一様から渡辺博司様に代えての選任案としています。

(役員の任期)

第18条 役員の任期は、次のとおりとする。

理事 2年

監事 4年

2 前項の任期は、任期中の最終の決算期に関する通常総会の終結の時までとする。

3 補欠又は増員のために選任された役員の任期は、その前任者又は現任者の残任期間とする。ただし、理事又は監事の全員が任期満了前に退任した場合においては、新たに選任された役員の任期は、第1項に規定する任期とする。

定款付則

(設立当初の役員の任期)

4 設立当初の役員の任期は、第18条第1項の規定にかかわらず、設立後最初に開催される通常総会の終結の時までとする。

○第2号議案に関しては、6月9日に書面で開催された第3回理事会において、役員全員が賛成されています。なお、事業内容の詳細に関しては、資料2「令和元年度活動報告書」の

本文 https://blcj.or.jp/blcj_files/blcj_report2019_main.pdf (約100MB)

表紙 https://blcj.or.jp/blcj_files/blcj_report2019_cover.pdf

にて内容をご確認いただくとともに、官民研究投資拡大プログラム(PRISM)「BIM オブジェクトライブラリの拡充と法適合判定等に必要の情報連携手法の開発」の概要に関しては、上記報告書の60ページから63ページに、詳細に関しては64ページから444ページに記載しておりますので参照願います。

なお活動報告書は総会では議決の対象ではなく、参考です。

○第3号議案に関しては、3月31日に書面で開催された第2回理事会において、役員全員が賛成されています。なお、事業の具体的な内容に関しては、添付の資料3「令和2年度活動計画(各部会の事業計画詳細)」を参照願います。

なお、資料3は、総会では議決の対象ではなく参考ですが、部会、WGでは実行に向けての活発な議論をお願いします。

○参考として「建設通信 BIM 特集5月28日」もダウンロードしてご覧ください。

資料 1 「令和 2 年度定時総会に関する資料の事前送付」

第 1 号議案 役員を選任について

第 2 号議案 令和元年度事業報告及び決算について

第 3 号議案 令和 2 年度事業計画及び収支予算について

第1号議案 役員の選任について

役職	氏名	所属先及び役職	
理事長	奥田 修一	一般財団法人建築保全センター理事長	再任
専務理事	寺本 英治	一般財団法人建築保全センター理事・保全技術研究所長	再任
理事	居谷 献弥	一般社団法人日本建築士事務所協会連合会 専務理事	再任
同	一ノ瀬雅之	首都大学東京都市環境学部 准教授	再任
同	志手 一哉	芝浦工業大学建築学部建築学科 教授	再任
同	渡辺 博司	一般社団法人日本建設業連合会 常務理事	新任
同	安田 幸一	東京工業大学 環境・社会理工学院建築学系 教授	再任
同	山下 純一	一般社団法人 building SMART Japan 代表理事	再任
同	山本 康友	首都大学東京都市環境学部 客員教授	再任
監事	羽山 眞一	一般社団法人公共建築協会 常務理事	再任

第2号議案 令和元年度事業報告及び決算について

令和元年度事業報告について

令和元年度 事業報告書

自 令和元年8月23日

至 令和2年3月31日

B I Mライブラリ技術研究組合

I. 組合の事業活動の概況に関する事項

- | | |
|----------------------------|--------|
| 1. 当該事業年度の末日における主要な事業内容 | …… P 4 |
| 2. 当該事業年度における事業の経過及びその成果 | …… P 4 |
| 3. 当該事業年度における資金等の事項についての状況 | …… P 7 |
| 4. 直近三事業年度の財産及び損益の状況 | …… P 7 |
| 5. 対処すべき重要な課題 | …… P 7 |
| 6. その他組合の現況に関する重要な事項 | …… P 7 |

II. 組合の運営組織の状況に関する事項

- | | |
|--|---------|
| 1. 総会の開催状況に関する事項 | …… P 8 |
| 2. 組合員の数及びその増減 | …… P 8 |
| 3. 役員 | …… P 8 |
| 4. 職員の数及びその他の職員の状況 | …… P 8 |
| 5. 業務運営の組織に関する事項 | …… P 9 |
| 6. 主たる事務所、従たる事務所及び組合が所有する施設の
種類ごとの主要な施設の名称及び所在地 | …… P 10 |
| 7. その他、組合の運営組織に関する重要な事項 | …… P 10 |

III. その他組合の状況に関する重要な事項 …… P 10

I. 組合の事業活動の概況に関する事項

1. 当該事業年度の末日における主要な事業内容

(1) テーマ1：BIM オブジェクトの標準化

他の分野の研究活動成果を反映して継続的研究の実施

(2) テーマ2：BIM ライブラリの構築・運用

オブジェクトの作成と作成支援、BIM ライブラリ構築条件整理と構築

(3) テーマ3：BIMによる円滑な情報連携の実現

建築確認との連携の検討

(4) テーマ4：BIM フロンティア技術

情報収集

2. 当該事業年度における事業の経過及びその成果

(1) テーマ1：BIM オブジェクトの標準化

a. 試験研究の具体的内容(設立時)

BIM オブジェクトは、建築物を構成する部材・製品・機器等を BIM でモデル化したものであり、形状(情報)と属性(情報)で構成される。形状(情報)は部材等の3次元の形であり、属性(情報)は、性能、種別、法令、仕様、耐久性、コスト等である。建築プロジェクトで BIM を利用する場合には、この BIM オブジェクトを作成し、また繰返し利用するが、従来は個々の企業で BIM オブジェクトを作成しており、情報の配列・定義が不統一のため、円滑な情報連携ができなかった。そこで主に属性(情報)の標準化を図り、円滑な情報連携と生産性向上を図るものである。

前身の BIM ライブラリーコンソーシアムにおいて、2018 年 10 月に BLC BIM オブジェクト標準 (version1.0) が合意・確立されているが、PRISM の調査研究により課題が示されており、またテーマ 3, 4 に関連する検討箇所もあること、対象製品範囲を拡大する必要があることから、さらに標準化を進め、情報プラットフォームのルールとして適切なものを目指す。

b. 目指す最終成果(設立時)

BIM オブジェクト標準の確立、拡充

c. 令和元年度(2019 年度)実施内容

①既存の BIM オブジェクトライブラリデータの現況把握に係る調査として、設計事務所、ゼネコン、ソフトベンダーに対し、「建築意匠設計」「建築構造設計」「設備設計」「建築施工」「設備施工」「建築系製品」「設備系製品」の保有状況をアンケート調査した。また建築 BIM 推進会議のガイドラインに示される企画から維持管理までの各段階に応じた BIM オブジェクトの形状と属性情報の最適

化を検討する必要性を把握した。

- ②BIM オブジェクトライブラリデータ形状・属性情報に係る仕様案の確定に関して、 実用化段階の整備に必要な仕様案を確定するために、BLC-BIM オブジェクト標準 (Version1.0) に定義した属性項目、データ型を、BIM ソフトウェアの仕様に合わせてシステムオブジェクトとコンポーネントオブジェクトごとにパラメータ付与方法について整理をした。
- ③部位・部品を代表するライブラリデータの作成に関しては、2018 年度業務で作成した BIM オブジェクトを拡充するための、部位・部品を代表する BIM オブジェクト(建築 50、設備 135)を作成した。
- ④試作対象となる部位・部品の個別具体のライブラリデータ作成環境の調査に関しては、部位・部品を代表する BIM オブジェクトに対応する、個別具体の BIM オブジェクトについて、部位・部品の製造者の対応状況について調査を行った。

(2) テーマ 2 : BIM ライブラリの構築・運用

a. 試験研究の具体的内容(設立時)

建築プロジェクトでは、発注を境に、建物を構成する個々の製品等が一般名称から企業の固有な製品に変化する。このため BIM ライブラリで扱う BIM オブジェクトも、ジェネリックオブジェクト(一般名称)と、メーカーオブジェクト(製造企業、型式等が 特定)が必要である。このうちジェネリックオブジェクトは当該研究で作成し、メーカーオブジェクト は、標準化と作成を支援するツールの開発を行う。

またオブジェクトの提供、蓄積を行う BIM ライブラリは、幅広く利用できるよう、配信環境の設定、拡張性やセキュリティへの配慮を行うとともに、運用に必要な規約類の整備、モニタリング体制等の技術を開発する。

更に運用段階では、社会実装が可能かの観点から、技術及び運営の検証を行った。

b. 目指す最終成果(設立時)

オブジェクトの作成及び作成支援及び BIM ライブラリ構築・運用とその検証

c. 令和元年度(2019 年度)実施内容

①データ配信環境に必要となる情報システムの要件、技術的仕様案の確定として、「前年度調査結果の整理」では、前年度検討した 24 の要件を整理して示した。「実用化に向けた考慮事項」では、実用化への考慮のポイントとしては

- ・ BIM ライブラリに要求する機能であるか
- ・ 段階的開発を前提とした場合、第一段階で必要か、それ以降の段階か
- ・ BIM ライブラリの機能要件か、その他の要件か

の観点から前年度の 24 の要件を見直し、第 1 段階には 16 項目の機能要件、第 2 段階、第 3 段階は各々 1 項目の機能要件に整理した。

②効率的な BIM オブジェクトライブラリデータ配信環境の検討では、「企業の個別・具体の BIM オブジェクトライブラリデータの状況」として建築系メーカー、設備系メーカーに対して行ったアンケート

ート結果を別の視点から考察しているが、今後 BIM オブジェクトの量的な過不足に関しても分析を検討している。

- ③BIM オブジェクトライブラリデータの配信環境の改良では、2018 年度開発した試作ライブラリをさらに改良し、次の段階に繋げられることを行った。

(3) テーマ 3 : BIM による 円滑な情報連携の実現

a. 試験研究の具体的内容(設立時)

設計から施工、施工から維持管理に円滑に情報が伝達できるよう、受け渡し・情報入力ルール of 明確化とオブジェクト標準への反映を研究するとともに、現在 BIM 導入を検討中等で、導入効果が大きいと考えられる分野(例：建築確認申請、仕様情報等)での BIM 活用を図るため、必要な情報連携技術の検討、標準の見直し等の環境整備を行う。また、それらについて実プロジェクトでの試行、検証を行う。

b. 目指す最終成果(設立時)

円滑な情報連携による BIM 活用の拡大

c. 令和元年度(2019 年度)実施内容

- ①BIM の属性情報と建築の法適合に係る情報との連携手法の検討に関して、現状を把握する必要があるため、建築審査機関でのヒアリングを踏まえて、既に行われている BIM を活用した確認申請事例を調査し、BIM 活用の課題等について整理検討を行った。
- ②積算に用いる建築物のコード体系及び工事仕様に係る情報との連携手法の検討に関して、積算コード体系及び工事仕様に係る情報と、BIM オブジェクトライブラリデータの属性情報との連携についての検討を行った。海外における ISO12006-2 に準拠して作成された OmniClass(主として米国、カナダ、オーストラリアで利用)や Uniclass2015(主として英国等で利用)を踏まえて、公共建築工事標準仕様書との検証を行った。

(4) テーマ 4 : BIM フロンティア技術

a. 試験研究の具体的内容(設立時)

BIM は、今後周辺領域・技術と連携しながら発展する可能性がある。このための情報収集、連携可能性検討等を行う。また BIM で新たに解決可能性が 広がる分野も検討を広げる。具体的には、GIS、都市づくり、IoT、ビッグデータ、AI 等において、建築物でも連携・活用しやすい環境構築を図るとともに、設計から施工、建物 所有者への設計意図の伝達等が考えられる。

b. 目指す最終成果(設立時)

BIM フロンティア技術における新たな可能性の創出

c. 令和元年度(2019 年度)実施内容

維持管理に BIM を活用した事例などの情報収集を行った。

3. 当該事業年度における資金等の事項についての状況

(1) 資金の借り入れその他の資金調達

なし

(2) 組合が所有する施設の建設又は改修その他の設備投資

なし

(3) 他の法人との業務上の連携

なし

(4) 事業の全部又は一部の譲渡又は譲り受け、合併その他の組織の再編成

なし

4. 直近三事業年度の財産及び損益の状況

令和元年8月23日設立のため、該当なし

5. 対処すべき重要な課題

BIM ライブラリ構築に必要なシステム開発費及び運用段階の継続的な収入を確保する必要があり、賦課金の増額、事業収入の確保等が必要と思料される。

6. その他組合の現況に関する重要な事項

オブジェクトの標準化の意義、BIM ライブラリの役割について、関係者間の調整を図りながら進める必要がある。

Ⅱ. 組合の運営組織の状況に関する事項

1. 総会の開催状況に関する事項

(1) 第1回総会（設立時臨時総会）

- ① 開催日時 令和元年9月24日 17:30~18:20
- ② 出席した組合員の数 本人出席 21人、代理出席 57人、欠席 5名
- ③ 重要な事項の決議状況
第1号議案 BIMライブラリ技術研究組合の費用の賦課及び徴収の方法に関する規約の制定について

2. 組合員の数及びその増減

本年度(令和元年度)末組合員数 92 (R1.8.23 設立時に対し増9)

3. 役員

(臨時総会の日の翌日以降に在任していた者であって、当該事業年度の末日までに退任した者を含む。以下同じ。)

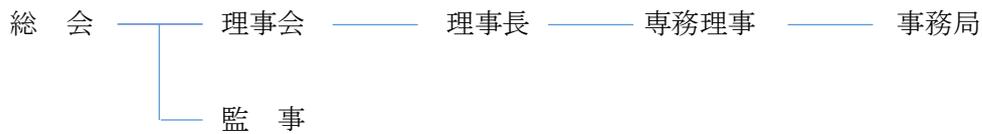
氏名	組合における職制上の地位及び担当	他の法人の代表者等の場合、当該役職	当該事業年度中に辞任した場合、辞任年月日
奥田 修一	理事長	一般財団法人建築保全センター理事長	
寺本 英治	専務理事	一般財団法人建築保全センター理事・保全技術研究所長	
居谷 献弥	理事	一般社団法人日本建築士事務所協会連合会 専務理事	
一ノ瀬 雅之	同	東京都立大学都市環境学部 准教授	
志手 一哉	同	芝浦工業大学建築学部建築学科 教授	
葉石 善一	同	一般社団法人日本建設業連合会 常務理事	
安田 幸一	同	東京工業大学 環境・社会理工学院建築学系 教授	
山下 純一	同	一般社団法人 building SMART Japan 代表理事	
山本 康友	同	東京都立大学都市環境学部 客員教授	
羽山 眞一	監事	一般社団法人公共建築協会 常務理事	

4. 職員の数及びその増減その他の職員の状況

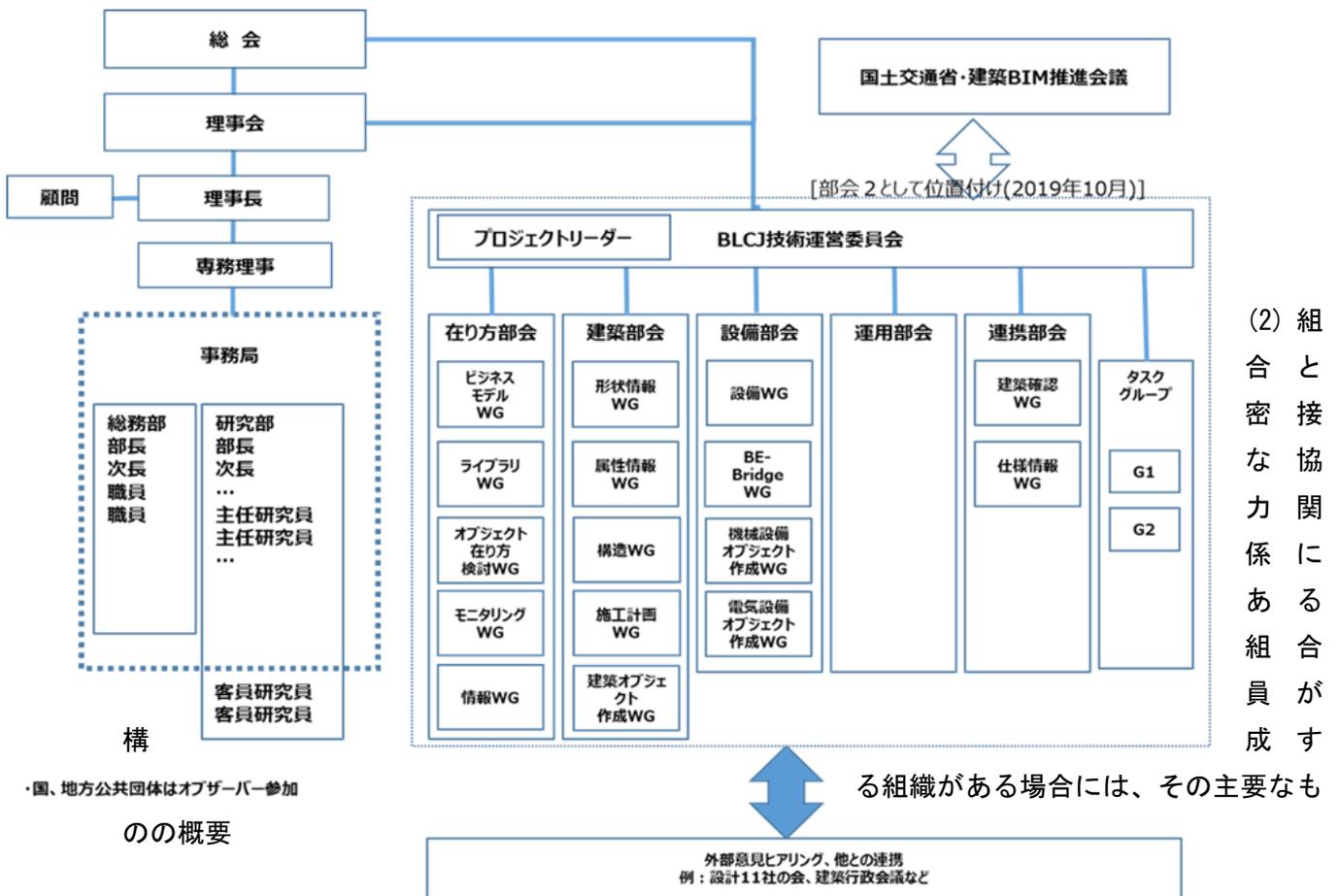
本年度(令和元年度)末職員数 12 (短期間雇用者を含む)

5. 業務運営の組織に関する事項

(1) 組合の内部組織の構成を示す組織図



【試験研究の実施体制】



・国、地方公共団体はオブザーバー参加

の概要

なし

6. 主たる事務所、従たる事務所及び組合が所有する施設の種類ごとの主要な施設の名称及び所在地

主たる事務所 東京都中央区新川1-24-8

7. その他、組合の運営組織に関する重要な事項

国土交通省が主催する建築BIM推進会議及び関係外部部会との技術的連携を図るとともに、BIMライブラリ構築の本格化に伴って、技術運営委員会を中心としたBLCJ各部会及びワーキンググループの活動のより緊密な連携と推進を図る必要がある。

Ⅲ. その他組合の状況に関する重要な事項

新規組合員として加入を希望する企業が複数あり、手続きの迅速化を図るとともに、BIMライブラリ技術研究組合の将来を展望した将来計画の作成とその普及活動を、ユーザー、製造者等に対して行う取り組みが必要である。

令和元年度決算（案）について

貸借対照表

令和2年3月31日現在

BIMライブラリ技術研究組合

(単位：円)

資産の部		負債及び純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I 流動資産	33,282,402	(負債の部)	
1. 現金及び預金	28,457,125	I 流動負債	27,187,553
(1) 現金	85,111	1. 未払金	24,567,972
(2) 預金	28,372,014	2. 未払法人税等	2,571,200
2. 未収金	4,528,865	3. 預り金	48,381
3. 前払費用	296,412		
		II 固定負債	0
II 固定資産	0		
		負債合計	27,187,553
III 繰延資産	0	(純資産の部)	
		I 剰余金	6,094,849
		II その他の純資産	0
		純資産合計	6,094,849
資産合計	33,282,402	負債及び純資産合計	33,282,402

損 益 計 算 書

自 令和元年8月23日
至 令和2年3月31日

BIMライブラリ技術研究組合
(単位：円)

科 目	金 額	
事業収益		
研究委託費収入	45,938,865	
賦課金等収入		
賦 課 金	13,300,000	59,238,865
事業費用		
B I Mライブラリ事業費支出		26,059,195
売上総利益金額		33,179,670
一般管理費		
役員報酬	4,297,647	
給与手当	9,481,727	
給与負担金	1,879,714	
通勤手当	490,808	
法定福利費	1,292,524	
旅費交通費	421,484	
通信費	73,268	
交際費	723,400	
会議費	49,896	
賃借料	214,092	
地代家賃	2,278,092	
リース料	49,280	
水道光熱費	158,243	
消耗品費	1,012,649	
租税公課	39,854	
広告宣伝費	396,000	
支払手数料	35,570	
支払報酬	590,120	
委員手当	830,000	
雑費	199,284	24,513,652
営業利益金額		8,666,018
事業外収益		
受取利息		31
税引前当期純利益		8,666,049
法人税、住民税及び事業税		2,571,200
当期純利益		6,094,849

剰余金処分案

BIMライブラリ技術研究組合
(単位：円)

当期末処分剰余金	6,094,849
----------	-----------

これを次のとおり処分します。

次期繰越剰余金	6,094,849
---------	-----------

財 産 目 録

令和2年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
	現金	手許保管 運転資金として	85,111
	預金	みずほ銀行新川支店 普通預金 運転資金として	28,372,014
		現金預金計	28,457,125
	未収金	事業収益 工期との関係で研究委託収入が未収となっているもの	4,528,865
		未収金計	4,528,865
	前払費用	事務所賃貸料 事務所賃貸料の令和2年4月分の前払い	250,050
		職員通勤手当 通勤手当は6ヶ月分支給しているため、4月以降分の前払い	46,362
		前払費用計	296,412
流動資産合計			33,282,402
(固定資産)			0
(繰延資産)			0
資産の部合計			33,282,402
(流動負債)			
	未払金	事業費 研究事業の業務に係る未払い	23,839,395
		人件費 臨時雇用賃金、通勤手当等の未払い	440,235
		事務費 委員手当、消耗品費等の未払い	288,342
		未払金計	24,567,972
	預り金	源泉所得税 委員会委員等から預かっている源泉所得税	48,381
	未払法人税等		2,571,200
流動負債合計			27,187,553
(固定負債)			0
負債の部合計			27,187,553
正味資産			6,094,849

個 別 注 記 表

BIMライブラリ技術研究組合

この計算書類は、技術研究組合の成立・運営等のガイドラインによって作成しています。

重要な会計方針に係る事項に関する注記

計算書類作成のための重要な事項

(1) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転するもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によつています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によつています。

監 査 報 告 書

B I Mライブラリ技術研究組合

理事長 奥田 修一 殿

私は、本日、B I Mライブラリ技術研究組合の令和元年8月23日から令和2年3月31日までの事業年度における業務並びに会計及び財産の状況について監査を行いましたので、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私は、理事会その他重要な会議に出席するほか、理事等からその職務の執行状況について報告を受けるとともに、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。

また、会計帳簿等の調査を行い、計算書類及び事業報告書につき、その妥当性について検討いたしました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告書の内容は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 決算書類（貸借対照表、損益計算書、財産目録及び財務諸表に対する注記）は、法人の財産及び損益の状況を適正に示しているものと認めます。

令和2年6月2日

B I Mライブラリ技術研究組合

監 事 羽 山 眞 一

第3号議案 令和2年度事業計画及び収支予算について

令和2年度事業計画書（案）

BIM ライブラリ技術研究組合(BLCJ)

I.試験研究の概要

(1) 試験研究の課題

建築物の設計・施工・維持管理の生産性向上が求められる状況にあつて、建築物の部材・部品の3次元の形状と性能等のデータを併せ持つ BIM (Building Information Modeling) を、多くの利用者が使いやすい環境に構築することが必要。そのために、共通ルール（標準）に基づいた情報基盤の形成が課題である。

(2) 試験研究の目的

BIM による円滑な情報連携の実現のため、繰返し利用される建築物の部材・部品の形状や性能等のデータ(BIM オブジェクト)を標準化し、その提供や蓄積を行う BIM ライブラリを構築・運用するとともに、現在 BIM 導入を検討・開発中でその効果が大きい分野との連携を図ることにより、効率的な建築物のプロジェクト管理等を実用化することを試験研究の目的とする。

また BIM オブジェクトの標準化と 広く利用される情報プラットフォーム(BIM ライブラリ)構築が主な成果であることから、社会利益を主眼とした試験研究であることが特色である。

II.試験研究の実施場所

(1) 主たる実施場所

BIM ライブラリ 技術研究組合 (BLCJ) 事務所
東京都中央区新川1-24-8 (一財)建築保全センター内

(2) 従たる実施場所

構成する組合員の事務所

(3) 試験研究のために使用される設備の概要

設備名	台数	場所	用途等
試作した運用システム	1	BIM ライブラリ 技術研究組合事務所	BIM オブジェクトの試作、試行及び課題

III.試験研究の具体的内容

(1) テーマ1：BIM オブジェクトの標準化

a. 試験研究の具体的内容(設立時)

BIM オブジェクトは、建築物を構成する部材・製品・機器等を BIM でモデル化したものであり、形状(情報)と属性(情報)で構成される。形状(情報)は部材等の 3 次元の形であり、属性(情報)は、性能、種別、法令、仕様、耐久性、コスト等である。

建築プロジェクトで BIM を利用する場合には、この BIM オブジェクトを作成し、また繰り返し利用するが、従来は個々の企業で BIM オブジェクトを作成しており、情報の配列・定義が不統一のため、円滑な情報連携ができなかった。

そこで主に属性(情報)の標準化を図り、円滑な情報連携と生産性向上を図るものである。

前身の BIM ライブラリーコンソーシアムにおいて、2018 年 10 月に BLC BIM オブジェクト標準 (version1.0) が合意・確立されているが、PRISM の調査研究により課題が示されており、またテーマ 3,4 に関連する検討箇所もあること、対象製品範囲を拡大する必要があることから、さらに標準化を進め、情報プラットフォームのルールとして適切なものを目指す。

b. 目指す成果(設立時)

BIM オブジェクト標準の確立、拡充

c. 令和 2 年度(2020 年度)実施内容

○オブジェクトの標準化(属性情報の標準化を含む)

- ・ S0~S6 のワークフローに整合した実用的な形状・属性情報標準の見直し(表示、入力、ファミリー、テンプレート作成等も含む)
- ・ ジェネリックオブジェクトの充足度、属性情報の過不足、円滑な情報連携に必要なソフトウェアの調査
- ・ 公共工事標準仕様書との属性情報連携の調査

d. 令和 2 年度(2020 年度)に 目指す成果

○オブジェクトの標準化

- ・ S0~S6 のワークフローに整合した実用的な形状・属性情報の修正標準案(ver2.0)作成、公表
- ・ ジェネリックオブジェクトの充足度、属性情報の過不足、円滑な情報連携に必要なソフトウェアの調査結果の整理
- ・ 公共工事標準仕様書との属性情報連携の調査結果の整理

(2) テーマ 2 :) BIM ライブラリーの構築・運用

a. 試験研究の具体的内容(設立時)

建築プロジェクトでは、発注を境に、建物を構成する個々の製品等が一般名称から企業の固有な製品に変化する。

このため BIM ライブラリで扱う BIM オブジェクトも、ジェネリックオブジェクト(一般名称)と、メーカーオブジェクト(製造企業、型式等が 特定)が必要である。

このうちジェネリックオブジェクトは当該研究で作成し、メーカーオブジェクト は、標準化と作成を支援するツールの開発を行う。

またオブジェクトの提供、蓄積を行う BIM ライブラリは、幅広く利用できるよう、配信環境の設定、拡張性やセキュリティへの配慮を行うとともに、運用に必要な規約類の整備、モニタリング体制 等の技術を開発する。

更に運用段階では、社会実装が可能かの観点から、技術及び運営の検証を行う。

b. 目指す成果(設立時)

オブジェクトの作成及び作成支援

BIM ライブラリ構築・運用とその検証

c. 令和 2 年度(2020 年度)実施内容

○BLCJ 標準に基づくオブジェクトの作成

- ・上記の見直された標準に基づくオブジェクトの作成と作成支援
- ・ジェネリックオブジェクト作成
- ・オブジェクト作成支援ツールの整備等によるメーカーオブジェクト作成支援

○ライブラリの構築

- ・将来計画も含めた目標・機能・利用形態・事業スケジュールの確定、公表
- ・BLCJ 標準によるオブジェクトを掲載したライブラリの開発者選定と構築着手
- ・建築オブジェクトの配信範囲・方法の検討

d.令和 2 年度(2020 年度)に 目指す成果

○オブジェクトの作成

- ・不足するジェネリックオブジェクトの作成とメーカーオブジェクトの作成支援

○ライブラリ構築

- ・将来計画を含む目標・機能・利用形態・事業スケジュールの確定
- ・ライブラリの構築着手
- ・設備を主にした試験ライブラリの必要範囲での公開

(3) テーマ 3 : BIM による円 滑な情報連携の実現

a. 試験研究の具体的内容(設立時)

設計から施工、施工から維持管理に円滑に情報が伝達できるよう、受け渡し・情報入力ルール の明確化とオブジェクト標準への反映を研究するとともに、現在 BIM 導入を検討中等で、導入効果 大きいと考えられる分野(例：建築確認申請、仕様情報等)での BIM 活用を図るため、必要な情報連携技術の検討、標準の見直

し等の環境整備を行う。

また、それらについて実プロジェクトでの試行、検証を行う。

b. 目指す成果(設立時)

円滑な情報連携による BIM 活用の拡大

c. 令和 2 年度(2020 年度)実施内容

○他部会との連携

- ・ 標準仕様書、建築確認の性能評価、コード化との連携の検討
- ・ 建築確認との連携の検討、整理(部会 3)
- ・ コードとの連携の検討、整理(部会 4)

○その他

- ・ ライブラリの運用等に必要な規約類の検討、整備

d.令和 2 年度(2020 年度)に 目指す成果

○他部会との連携

- ・ 建築確認との連携(部会 3 との連携)、コード検討との連携(部会 4 との連携)

○その他

- ・ 運用に必要な規約の確定等

(4) テーマ 4：BIM フロンティア技術

a.試験研究の具体的内容(設立時)

BIM は、今後周辺領域・技術と連携しながら発展する可能性がある。このための情報収集、連携可能性検討等を行う。また BIM で新たに解決可能性が 広がる分野も検討を広げる。

具体的には、GIS、都市づくり、IoT、ビッグデータ、AI 等において、建築物でも連携・活用しやすい環境構築を図るとともに、設計から施工、建物 所有者への設計意図の伝達等が考えられる。

b.目指す成果(設立時)

BIM フロンティアにおける新たな可能性の創出

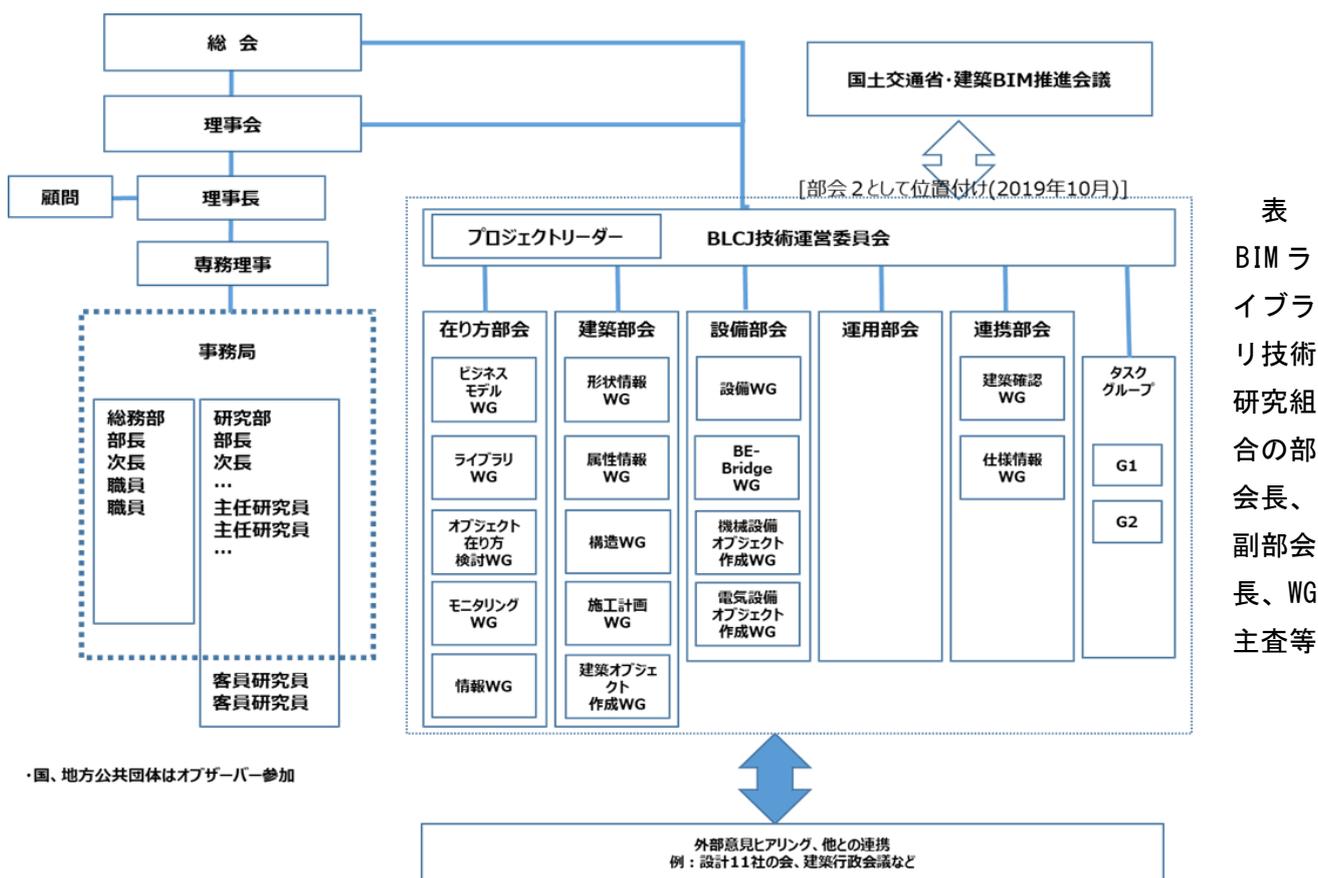
c.令和 2 年度(2020 年度)実施内容

- ・ 他領域との連携可能性の検討

d.令和 2 年度(2020 年度)に目指す成果

- ・ 他領域との連携可能性の検討結果の整理

IV.試験研究の実施体制



□技術運営委員会

BIMライブラリのビジネスモデル、ライブラリの構築、オブジェクトの在り方、モニタリングに関する検討及びBIMに関する最新の情報交流を行う。

□在り方部会

BIMライブラリのビジネスモデル、ライブラリの構築、オブジェクトの在り方、モニタリングに関する検討及びBIMに関する最新の情報交流を行う。

□建築部会

BIMライブラリ標準(BLCJ標準)のうち建築領域の(ELV、ユニット製品を含む)の作成、改訂及び同標準に基づく建築領域のオブジェクトの作成

□設備部会

BIMライブラリ標準(BLCJ標準)のうち機械設備領域、電気設備領域の作成、改訂、同標準に基づく機械設備領域、電気設備領域のオブジェクトの作成及びBE-Bridge仕様の改訂、活用

□運用部会

BIMライブラリの運用に関する各種基準の作成及びBIMオブジェクトの知的財産権等に関する検討

□連携部会

建築確認申請プロセスにおけるBIMオブジェクト連携に関する検討・整理、BIMライブラリ標準(BLCJ標準)に基づくBIMオブジェクトと仕様情報との連携に関する検討・整理及びBIMライブラリ標準に基づくオブジェクトの実プロジェクトでの試行検討

技術研究	理事長	奥田 修一	(一財)建築保全センター理事長
組合	プロジェクトリーダー	寺本 英治	(一財)建築保全センター保全技術研究所長
在り方部会	部会長	安田 幸一	東京工業大学 教授
	副部会長	山下 純一	(一社)buildingSMART Japan 代表理事
	ビジネスモデル WG	山下 純一	(前出)
	ライブラリ WG	寺本 英治	(前出)
	プロジェクト外在り方検討 WG 主査	安田 幸一	(前出)
	情報 WG 主査	鬼頭 篤子	BIM ライブラリ技術研究組合
	モニタリング WG	(未 定)	
建築部会	部会長	志手 一哉	芝浦工業大学教授
	副部会長	岩村 雅人	(株)日本設計
	属性情報 WG 主査	網元 順也	(株)佐藤総合計画
	形状情報 WG 主査	石川 隆一	(株)梓設計
	建築プロジェクト作成 WG 主査	石田 憲	(株)日建設計
	施工計画 WG 主査	志手 一哉	(前出)
	構造 WG 主査	大越 潤	大成建設(株)
設備部会	部会長	一ノ瀬 雅之	東京都立大学准教授(2020年4月から)
	副部会長・機械設備プロジェクト作成 WG 主査	吉原 和正	(株)日本設計
	副部会長・電気設備プロジェクト作成 WG 主査	吉永 修	(株)日建設計
	設備 査	焼山 誠	(株)大林組
運用部会	BE-Bridge WG 主査	谷内 秀敬	(一社)buildingSMART Japan
	部会長	山本 康友	東京都立大学客員教授(2020年4月から)
連携部会	副部会長	榊原 克巳	(一社) buildingSMART Japan
	部会長	山本 康友	(再出)
	建築確認 WG 主査	寺本 英治	(前出)
事務局	仕様情報 WG 主査	堀 直志	BIM ライブラリ技術研究組合
	研究部長	堀 直志	BIM ライブラリ技術研究組合
	担当	山中 隆	BIM ライブラリ技術研究組合
	担当	鬼頭 篤子	BIM ライブラリ技術研究組合
	担当	福島 孝治	BIM ライブラリ技術研究組合
	担当	渋谷 玲	(株)ジェスプロジェクトルーム

令和2年度収支予算（案）について

令和2年度収支予算書（案）

自 令和2年4月 1日

至 令和3年3月31日

BIMライブラリ技術研究組合
(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科 目	金額	科 目	金額
I 事業収入	46,000	I 事業費用	32,000
1. 研究委託費	46,000	1. ライブラリ構築&オブジェクト作成委託費	24,000
		2. ライブラリ構築&オブジェクト作成業務費	8,000
II 賦課金等収入	15,100		
1. 賦課金	15,100	II 一般管理費	29,100
		1. 人件費	19,680
		2. 事務費	9,420
合 計	61,100	合 計	61,100

資料 3 令和 2 年度活動計画(各部会の事業計画詳細)

事務局担当	寺本
部会の活動目標 [目標はスケジュールの活動目標記載]	(1)将来計画も含めた目標・機能・利用形態・事業スケジュール公表 (2)BLCJ 標準によるオブジェクトを掲載したライブラリの開発者選定 (3)BIM ライブラリ構築に着手(今年度はシステム設計) (4)モニタリング手法などの検討
活動目標(1)の具体的な取り組み	<u>概要、ポイント、課題等：</u> ・ BLCJ の果たすべき役割を踏まえ、利用形態、ビジネスモデルと収支、運用体制、ライブラリ機能の確定[1 期と 2 期]を検討し公表 <u>担当 WG、連携する内部部会/WG、連携する外部部会：</u> ・ 担当：ビジネスモデル WG、ライブラリ WG、情報化委員会 ・ 連携：全部会 <u>委託の有無等：</u> ・ 委託なし、情報化委員会(タスクフォース)を新設し、BIM・標準等の将来展望を検討
活動目標(2)の具体的な取り組み	<u>概要、ポイント、課題等：</u> ・ 開発者選定に先立ち BIM ライブラリ・標準のユースケースの明確化、BIM ソフトウェアベンダー・メーカー等との協議 ・ 情報化委員会で具体的な評価基準・選定を行い理事会に報告 <u>担当 WG、連携する内部部会/WG、連携する外部部会：</u> ・ 担当：情報化委員会、ライブラリ WG <u>委託の有無等：</u> ・ 無し
活動目標(3)の具体的な取り組み	<u>概要、ポイント、課題等：</u> ・ 2020 年 12 月にライブラリ設計着手(運用開始は 2021 年秋を想定) <u>担当 WG、連携する内部部会/WG、連携する外部部会：</u> ・ 担当：ライブラリ WG ・ 連携：情報化委員会、全部会 <u>委託の有無等：</u> ・ システム開発とアドバイザーを委託予定
活動目標(4)の具体的な取り組み	<u>概要、ポイント、課題等：</u> ・ モニタリング手法、体制等の検討 <u>担当 WG、連携する内部部会/WG、連携する外部部会：</u> ・ 担当：モニタリング WG ・ 連携：運用部会 <u>委託の有無等：</u> ・ 無し
その他	

各部会の 2020 年度事業計画詳細・総括表(案) 部会名 【建築部会】

事務局担当	鬼頭・福島
部会の活動目標 [目標はスケジュールの活動目標記載]	<p>(1)建築 BIM 推進会議のワークフロー・データフローに整合した BLCJ の対応範囲の検討・整理</p> <p>(2) ワークフローのアウトプット目標に見合った属性情報の整理、それらの項目を検討する方法の整理</p> <p>(3) 上記の見直された標準を活用するためのデータ類の検討（インポータ、パラメータ設定ファイル、サンプルモデル・テンプレート、など）</p>
活動目標(1)の具体的な取り組み	<p>概要、ポイント、課題等：BLCJ の対応範囲を明確化する</p> <p>目標：仕様連携システムの構想と利用イメージの取りまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年度 PRISM 成果の検証を実施し、標準ワークフロー・データフローに見合った属性の利活用の整理やインポータの実践的な活用の流れを提案（営繕の実証試験も想定して対応） ・ 設計のデータ入力フロー、ユーザー視点での属性情報と積算や仕様書のつなぎ方の提案、スペースオブジェクトの活用を検討 ・ 建築仕様連携システムの利用イメージを検討 <p>担当 WG、連携する BLCJ 部会/WG、連携する外部部会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築部会コアメンバー、設備部会コアメンバー、連携部会 ・ 建築 BIM 推進会議：部会 1、部会 3、部会 4、設計三会 <p>委託の有無(ある場合は、内容と概算金額)：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委託なし、コア会議 6 回 ・
活動目標(2)の具体的な取り組み	<p>概要、ポイント、課題等：BLCJ 標準の利用場面を明示する</p> <p>目標：パラメータの共通化と実装の仕方を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ BLCJ 標準が守備するアウトプットの明確化（建具表、仕上げ表、確認申請のどの図面、積算に出力する内容など） ・ BLCJ パラメータと BIM ソフトが元々有しているパラメータとの重複などを整理 ・ BLCJ パラメータを入力するプロパティグループ、データの型、IFC 入出力との関係などを定義 ・ BLCJ パラメータと建築 BIM 推進会議ワークフローの各ステージとの対応を検討 ・ 上記の検討結果を「(仮称) オブジェクト属性シート」に整理して公表 <p>担当 WG、連携する BLCJ 部会/WG、連携する外部部会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設備部会、bSJ、ソフトベンダー、RUG など

	<p>委託の有無(ある場合は、内容と概算金額)：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委託なし、WG6 回
活動目標(3)の具体的な取り組み	<p>概要、ポイント、課題等：BLCJ 標準を活用するためのデータ類の検討</p> <p>目標：ベンダーやサードパーティも含めた BIM の活用に関する構想の取りまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共有パラメータの活用を関係部会や団体に例示するためのデータ（サンプルモデル、テンプレート、2019 年度 Revit ファミリの改善など）作成 ・ BLCJ 標準の利用環境を整備するための体制づくりへの働きかけ（ベンダーの協力要請など） <p>担当 WG、連携する BLCJ 部会/WG、連携する外部部会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築部会全 WG、設備部会、bSJ、ソフトベンダーなど <p>委託の有無(ある場合は、内容と概算金額)：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例示用データ（サンプルモデルやテンプレート）の作成：200 万円、WG4 回 ・
その他	<p>PRISM で予算を確保できるならば下記の内容を追加する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パラメータ追加インポータの改良（ARCHICAD、Revit）：500 万円（Revit 用のインポータ改良については設備部会との関係を視野に入れる） ・

各部会の 2020 年度事業計画詳細・総括表(案) 部会名 【設備部会】

事務局担当	山 中
部会の活動目標 [目標はスケジュールの活動目標記載]	(1)ワークフローに整合した実用的な形状・属性情報標準の見直し (2)上記の見直された標準に基づくオブジェクトの作成 (3)ジェネリックオブジェクトの充足度、属性情報の過不足、円滑な連携に必要なソフトウェアの調査
活動目標(1)の具体的な取り組み	<p>概要、ポイント、課題等：</p> <p>ワークフローのシミュレーションすなわち実例による確認を行い、形状・属性情報の過不足を明らかにする。参加企業有志・ワーキングあるいは委託により実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中分類まで整理された属性情報を個別機器まで拡張 →例：EHP/GHP 等 ・ 設計段階でのジェネリック obj/メーカーobj、施工段階でのジェネリック obj/メーカーobj での推奨する入力範囲の確定 →設備 CAD ソフトでの対応+情報のみ授受の2本立てが必要か ・ 電気設備（強電系）は配線器具等不足分を追加 ・ 電気設備（弱電系）は未着手。 →具体的に詰めるには、電気 SC、電機メーカー要参画 ・ 空調設備も不足分を追加 <p>担当 WG、連携する BLCJ 部会/WG、連携する外部部会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機械設備オブジェクト作成 WG/電気設備オブジェクト作成 WG
活動目標(2)の具体的な取り組み	<p>概要、ポイント、課題等：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ BLCJ 仕様での obj 作成に限定して整備 ・ 優先順位を事務所ビルとし、その後、別建物用途へ展開 ・ BLCJ 仕様の DB (IDX 他) 整備 <p>担当 WG、連携する BLCJ 部会/WG、連携する外部部会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機械設備オブジェクト作成 WG/電気設備オブジェクト作成 WG
活動目標(3)の具体的な取り組み	<p>概要、ポイント、課題等：</p> <p>具体的なソフトウェア候補を挙げ、(1)と同様に実例による確認を行い、形状・属性情報の過不足を明らかにする。参加企業有志・ワーキングあるいは委託により実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ジェネリック obj 不足分の提示

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携ソフトの考え方整理（設備 CAD ベース） ・ 共有パラメータの考え方の整理（コード化） ・ 維持管理へ連携するための属性情報設定 ・ ユースケースの提示（ユーザーズガイド作成） <p>担当 WG、連携する BLCJ 部会/WG、連携する外部部会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機械設備オブジェクト作成 WG/電気設備オブジェクト作成 WG ・ 設備WG/BE-BridgeWG ・ 建築部会
<p>BLCJ の他の部会との調整事項/ BLCJ 以外との調整・連携事項/ その他</p>	<p>建築部会とオーバーラップするオブジェクト，ならびに維持管理運用に関する考え方について調整する。 空気調和・衛生工学会， J F M A など関連する学協会との情報共有・意見交換を行う。</p>

活動目標の具体的な取り組み

- 1-1)個別機器を含んだ BLCJ 仕様表の作成 (機械設備)
 →PRISM での意見を反映
 ・ 設備 WG+機械設備オブジェクト作成 WG
 ・ 合同 WG 3Week ごとに開催 7 月末提示
 (追加例: GHP/EHP の違い)
- 1-2)個別機器を含んだ BLCJ 仕様表の作成 (電気設備: 既存)
 →BLCJ 仕様 Ver1 に含まれる電気機器の属性情報を再整備 (PRISM 意見を反映)
 ・ 設備 WG+電気設備オブジェクト作成 WG
 ・ 合同 WG 3Week ごとに開催 7 月末提示
- 1-3)個別機器を含んだ BLCJ 仕様表の作成 (電気設備: 弱電他)
 →BLCJ 仕様 Ver1 に含まれない電気機器分の属性情報を新規整備
 ・ 設備 WG+電気設備オブジェクト作成 WG
 ・ 合同 WG 3Week ごとに開催 9 月末提示
- 1-4)維持管理やコミショニングの項目を追加した BLCJ 仕様表の作成 (FM 他)
 →BLCJ 仕様 ver1 に含まれない FM 等の属性情報を新規整備
 ・ 設備 WG+機械設備オブジェクト作成 WG+電気設備オブジェクト作成 WG
 ・ 合同 WG 3Week ごとに開催 11 月末提示
- 1-5) ジェネリック obj/メーカーobj が持つべき属性情報の必須/推奨の確定
 →BLCJ 仕様 Ver2 に策定
 設計段階 → 施工段階 → 維持管理段階
 2020.7 末 2020.10 末 2021.2 末
 ・ 設備 WG+機械設備オブジェクト作成 WG+電気設備オブジェクト作成 WG
 ・ 合同 WG 3Week ごとに開催 段階的に提示
- 2-1)BLCJ 仕様 Ver 1 に含まれる範囲に限定してジェネリック obj 整備
 →PRISM での要望事項を反映したジェネリック obj 整備
 2020.7 末で確定した属性情報をセット (形状は変えない。)
 2020.8 末リリース
 ・ 機械設備オブジェクト作成 WG+電気設備オブジェクト作成 WG
 ・ 合同 WG 3Week ごとに開催
- 2-2) BLCJ 仕様 Ver2 でのジェネリック obj 整備
 →BLCJ 仕様 Ver2 で拡充された対象を含みジェネリック obj を整備
 BLCJ 仕様 Ver2 策定 (2020 末) 後着手
 ・ 機械設備オブジェクト作成 WG+電気設備オブジェクト作成 WG
 ・ 合同 WG 4Week ごとに開催 (2021.1 から開始)

2-3) 適用建物用途の拡充（空調：セントラル分の整備対象を拡充）

→整備対象の整理後

- ・ 設備 WG+機械設備オブジェクト作成 WG
- ・ 合同 WG 6Week ごとに開催（2020.9 から開始）

3-1) 連携ソフトの考え方整理（設備 CAD ベース）

→建築アドインの考え方を確認後、検討

→記述言語の変更検討（IDX→xml 記述）

3-2) 共有パラメータの考え方の整理（コード化）

→BLCJ 各種コード/仕様属性と Revit 共有パラメーター（GUID）の整合確認

- ・ 設備 WG+機械設備オブジェクト作成 WG+電気設備オブジェクト作成 WG+BE-BridgeWG
- ・ 合同 WG 8Week ごとに開催（2020.7 開始予定）

3-3) 維持管理へ連携するための属性情報設定（2020.12 には仮案）

→BLCJ 仕様 Ver 1 を元にして、ユーザー団体（JFMA）へ検討依頼

- ・ 設備 WG+機械設備オブジェクト作成 WG+電気設備オブジェクト作成 WG+BE-BridgeWG
- ・ 合同 WG 6Week ごとに開催（委託先決定後、開始）

3-4) ユースケースの想定（ユーザーズガイド：効果ある使い方）

→BLCJ 仕様で作成された obj をフェーズごとに効果的に使うためには、
どういう運用がいいのかをまとめた資料を作成し、ユーザーズガイドとする。

- ・ 設備 WG
- ・ 合同 WG 4Week ごとに開催

【要望他】

- ・ BLCJ 仕様 Ver1 もしくは Ver2 の公開とライブラリとして公開された obj をユーザーが使っている BIM ソフトで使えることとは別であることを BLCJ として、丁寧に説明してほしい。
→BLCJ 仕様で作成された obj が BIM ソフトで使えるかはベンダーの製品戦略によるところが「大」
→BLCJ 仕様 Ver1 の設備 obj も現時点で全設備 CAD で読めるわけではない。
- ・ ライブラリとして、obj が公開され、自分が使いたい obj がラインナップされていないと使えないと判断される。）
→ジェネリック obj をいくつラインナップしておくのかの議論が必要
- ・ BLCJ 仕様は、メーカーにメーカーobj を作成してもらうためのバイブルの位置づけ

各部会の 2020 年度事業計画詳細・総括表(案) 部会名 【運用部会】

事務局担当	渋谷
部会の活動目標 [目標はスケジュール の活動目標記載]	(1)ライブラリの開発に必要な規約整備 (2)ライブラリの運用・モニタリングに必要な規約整備 (3)知的財産権の取り扱いに関する整理
活動目標(1)の具体的な取り組み	概要、ポイント、課題等： ・「BIM ライブラリ構築・運用契約」の確定（2020年5月～2020年9月） 2020年10月に予定される BIM ライブラリのシステム開発会社の選定および開発開始に向け、2019年度までに作成した「BIM ライブラリ構築・運用契約」を現況に即して見直し、確定する。 担当 WG、連携する BLCJ 部会/WG、連携する外部部会： ・担当：運用部会全体 ・連携：在り方部会（ライブラリWG） 委託の有無(ある場合は、内容と概算金額)：あり ・規約の確定のため弁護士事務所への委託
活動目標(2)の具体的な取り組み	概要、ポイント、課題等： ・「基本規約事項」、「BIM オブジェクト利用規約」、「BIM オブジェクト提供契約」、「BIM オブジェクト作成・利用契約」の4規約について、試行プロジェクトにおける試行・検証（2020年10月～2021年2月） 担当 WG、連携する BLCJ 部会/WG、連携する外部部会： ・担当：運用部会全体・モニタリングWG ・連携：在り方部会（ライブラリWG・ビジネスモデルWG） 委託の有無(ある場合は、内容と概算金額)：無し (謝金・交通費・事務費用別途)
活動目標(3)の具体的な取り組み	概要、ポイント、課題等： ・証明書・改竄防止等の技術的手法、各種 BIM ソフトとの連携可能性の整理など（2020年度内） 担当 WG、連携する BLCJ 部会/WG、連携する外部部会： ・担当：運用部会全体・モニタリングWG ・連携：在り方部会・連携部会 委託の有無(ある場合は、内容と概算金額)：無し (謝金・交通費・事務費用別途)
その他	・課題： ビジネスモデルの具体化 IT 関連の技術的課題の整理、有識者ヒアリング

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
技術調査課		4/6-4/13 4/20-4/27	5/1-5/8 5/15-5/22 5/29-6/5	6/1-6/8 6/15-6/22 6/29-7/6	7/13-7/20 7/27-8/3	8/10-8/17 8/24-8/31 9/7-	9/14-9/21 9/28-10/5	10/12-10/19 11/6-11/13	11/20-11/27 12/4-12/11	12/18-12/25 1/4-1/11	1/18-1/25 2/1-2/8	2/15-2/22 3/1-3/8	3/15-3/22 3/29-
総会			建設通信 BIM特集	建築取りまとめ									
理事會			PR&M取組等	報告書印刷									
技術運営委員会			報告書作成、発表										
在り方部会		安田											
(1) 将来計画も含めた目標・機能・利用形態・事業スケジュールの公表 (2) BLCI標準によるオブジェクトを掲載したライブラリの開発者選定 (3) BIMライブラリ構築手法		ビジネスモデルWG	山下	目標・ビジネスモデル・スケジュール									
		ライブラリWG	香本	PR、運営方針等									
		オブジェクト在り方WG	安田										
		モニタリングWG	未定										
		情報WG	鬼頭										
運用部会		山本											
(1)ライブラリ等の運用に必要な契約書の整備													
BLCI外部との連携													

各部会の 2020 年度事業計画詳細・総括表(案) 部会名 【連携部会】

事務局担当	堀(寺本)
部会の活動目標 [目標はスケジュール の活動目標記載]	(1)建築確認との連携の検討 (2)標準仕様書との連携の検討 (3)分類コードとの連携の検討
活動目標(1)の具体的な取り組み	<p><u>概要、ポイント、課題等</u>：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築確認におけるオブジェクトレベルでの情報の流れを確認 ・ 建築確認業務と整合した BIM オブジェクトの属性情報、図記号表現パラメータの検討等及び必要に応じて属性情報の追加の検討 ・ 「1時間耐火構造の壁」を満足する「認定製品等」との関連付けを整理 ・ BLCJ のデータ構築に適した確認図面表現標準を提案 <p><u>担当 WG、連携する内部部会/WG、連携する外部部会</u>：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当 建築確認 WG ・ 連携部会 建築部会、設備部会、部会 3 (日本建築センター) <p>確認図面の表現標準および解説書に基づき、オブジェクト標準の見直し、改定の検討のため緊密な情報交換等の実施</p> <p><u>委託の有無等</u>：</p> <p>なし</p>
活動目標(2)の具体的な取り組み	<p><u>概要、ポイント、課題等</u>：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NBS Chorus の調査検討を踏まえて BIM 属性情報の的確な検索が可能となるよう公共建築工事標準仕様書の編集方法や属性情報記載方法の検討 <p><u>担当 WG、連携する内部部会/WG、連携する外部部会</u>：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕様情報 WG、建築部会、設備部会 <p><u>委託の有無等</u>：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NBS Chorus の調査検討 ・ 電子化に対応した公共建築工事仕様書の編集
活動目標(3)の具体的な取り組み	<p><u>概要、ポイント、課題等</u>：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Uniclass2015 ベースの BIM 分類体系標準案をオブジェクト標準の反映、BIM オブジェクトライブラリデータ構築に適した分類体系を提案 <p><u>担当 WG、連携する内部部会/WG、連携する外部部会</u>：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当 仕様情報 WG ・ 連携部会 部会 4 (日本建築積算協会) <p>的確に分類体系の検討内容をオブジェクト標準に反映させるため、緊密な情報交換等の実施</p> <p><u>委託の有無等</u>：</p> <p>なし</p>
その他	